



生還したり

渡辺 京子
(宮崎)

息苦しき夜が明け翌日を予約するも主治医の「すぐ来て」に今生きてゐる
面会も差し入れも叶はずひたすらに十日隔離の明くるを待てり

給食に全く箸が動かかねどキウイ・バナナ・リンゴに救はる

超高齢・基礎疾患有り・手術後と悪条件そろへど生還したり

ステーキの二片と伊勢屋の奈良漬に箸すすみたり退院の夜

わが退院待ちぬしごとく夫までもコロナと判る定期受診で

食欲の失せたる夫に連日の訪問看護で点滴はじまる

くつきりと凜々しき眉の看護師とわれを見比べ「眉描け」と夫は

要支援1の認定もらひたりリハビリ教室の新入生われ

週一のリハビリ教室待ち遠しわたしが使ふわたしの時間

昨晩は夫に三度も起こされて今日のわたしは優しくできない

「帰りたい。注射はいや」を繰り返す夫はどこにも預けられない

記憶力・羞恥心さらにユーモアもまだある夫は末期と思へず

「百歳は軽い」と言ひ来し夫なれど「今度は無理」とコロナ後変はる

桜まで連休までと日を重ね夫の白寿の六月めざす

このごろの私

一月から二月にかけて遂にわが家にもコロナが侵入。しかし二人とも生還できたのは奇跡だと家族は喜びましたがコロナ後の立ち直りが容易ではなく、子等に支えられながらの日々です。



職を辞す

高橋みどり

(愛知)

このごろの私
定年退職以降、無収入だが
時間だけはたっぷりある生活
を心から楽しんでいる。再任
用で働く道を選ばなかったの
は九月からイギリスに留学す
るため。長年の夢がやっと叶
うことに興奮が止まらない。

卒業を見届けられぬ生徒らと過ごした最後の一年終わる

はじめからブレーキかけて愛してた一年後には別れる子らを

「来年も先生の授業がよかったな」テストの隅の添え書きに泣く

立つ鳥はなるべくあとを濁さずに去ってゆきたい、去れるでしょうか

退職の辞令をもらうためだけの最後の勤務 弥生つごもり

今日までは私のデスクのはずなのに知らぬ誰かの名がすでにあり

花束をもらうことなどこの先はなからん今日は花瓶が足りぬ

事務室に立ち寄り返す保険証 ころもとなく明日より四月

目覚ましをかけずに床に就いている明日から我はとことん自由

今日からは自分で決めた時間割 掃除のあとのドイツ語講座

お仕事は何かと問われ「教員」と言いかけたのち「無職」と直す

水曜の午後に観に来た映画では主役が無断欠勤している

時計見てもうすぐ授業が始まると思っていたのも最初の三日

「先生」は便利な呼称 教職を離れてからも呼ばれておりぬ

職業の欄に「無職」と書くこともすんなり慣れて日帰りツアー